教育研究業績書

2026年11月09日

所属： 薬学科　　資格： 助教　　氏名： 原　史子

研究分野	研究内容のキーワード
分子イメージング	蛍光プローブ、核医学診断
学位	最終学歴
博士（薬学）、学士（薬学）	武庫川女子大学大学院 薬学研究科薬学専攻 博士課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.薬剤師国家試験対策業務	2022年4月2025年9月	学習意欲の向上、学習方法の定着を目的に、5年生の成績下位者を対象とした面談を実施している。面談時に問題演習を実施し、学習方法のアドバイスをしている。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.第1種放射線取扱主任者免許 2.薬剤師免許	2025年3月 2019年4月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.薬局薬剤師 2.薬局薬剤師	2025年10月2026年3月 2019年4月～2020年5月	
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1.生体および環境中のアルミニウムイオンの検出を可能とする蛍光プローブの開発研究	単	2025年3月	武庫川女子大学	
3 学術論文				
1.A long-wavelength fluorescent probe for efficient dual-color imaging of boronic acid-containing agents in living cells	共	2025年8月	Chemosensors, 13 (8), 283 (2025)	Shinya Takada, Honghuo Du, Naoya Kondo, Anna Miyazaki, Fumiko Hara, Shizuyo Horiyama, Takashi Temma, Masayori Hagimori
2.Aggregation-induced luminescent 3-phenyl pyrano[4,3-b]quinolizine derivatives as photosensitizers with anti-cancer properties	共	2025年3月	Molecules, 30, 1422 (2025)	Masayori Hagimori, Tatsusada Yoshida, Takuma Tsutsumi, Fumiko Hara, Shinya Takada, Yukiko Ogawa, Keitaro Tanaka

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
3. Development of a pyrone-fused tricyclic scaffold -based ratiometric fluorescent probe for Al3+ detection	共	2024年7月	Journal of Fluorescence, 35, 4559-4568 (2025).	Fumiko Hara, Naoko Mizuyama, Takeshi Fujino, Shinya Takada, Takashi Temma, Hideo Saji, Takahiro Mukai, Masayori Hagimori
4. Synthesis and Photophysical Characterization of Fluorescent Naphtho[2,3-d] thiazole-4,9-Diones and Their Antimicrobial Activity against Staphylococcus Strains	共	2024年6月	Molecules, 29, 2777 (2024)	Masayori Hagimori, Fumiko Hara, Naoko Mizuyama, Shinya Takada, Saki Hayashi, Tamami Haraguchi, Yoshiro Hatanaka, Toshihiro Nagao, Shigemitsu Tanaka, Miki Yoshii, Miyako Yoshida
5. Development of a water-soluble fluorescent Al3+ probe based on phenylsulfonyl-2-pyrone in biological systems	共	2024年4月	Analytica Chimica Acta, 1299, 342436 (2024)	Fumiko Hara, Naoko Mizuyama, Takeshi Fujino, Ashok Kumar Shrestha, Thenuwara Arachchige Omika Kasun Meetiyagoda, Shinya Takada, Hideo Saji, Takahiro Mukai, Masayori Hagimori
6. Antimicrobial Activity of 2-(Piperazin-1-yl) naphtho thiazole-4,9-dione against Staphylococcus Strains	共	2024年3月	Molecules, 29, 1277 (2024)	Tamami Haraguchi, Saki Hayashi, Seira Nakasaka, Yoshiro Hatanaka, Toshihiro Nagao, Shigemitsu Tanaka, Miki Yoshii, Fumiko Hara, Masayori Hagimori, Miyako Yoshida
7. High-affinity ratiometric fluorescence probe based on 6-amino-2,2' -bipyridine scaffold for endogenous Zn2+ and its application to living cells	共	2022年2月	Molecules, 27 (4), 1287 (2022)	Masayori Hagimori, Fumiko Hara, Naoko Mizuyama, Takeshi Fujino, Hideo Saji, Takahiro Mukai
8. Stereoselective one-pot synthesis of multi-substituted (2Z, 4E)-2,4-dienamides from ketene dithioacetal and their solid-state fluorescence	共	2021年7月	Research on Chemical Intermediates, 47, 4525-4536 (2021)	Masayori Hagimori, Naoko Mizuyama, Yasuhisa Nishimura, Fumiko Hara, Keitaro Tanaka, Yoshinori Tominaga
9. Selective cadmium fluorescence probe based on bis-heterocyclic molecule and its imaging in cells	共	2021年5月	Journal of Fluorescence, 31, 1161-1167 (2021)	Masayori Hagimori, Yasushi Karimine, Naoko Mizuyama, Fumiko Hara, Takeshi Fujino, Hideo Saji, Takahiro Mukai
その他				
1．学会ゲストスピーカー				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1．学会ゲストスピーカー				
2．学会発表				
1.フッ素化ペプチド脂質を基盤とするMucin16標的ナノキャリア型薬剤の開発	共	2026年10月	第76回日本薬学会関西支部総会・大会	吉川里依、住田真子、原 史子、髙田慎也、Marie Pierre Krafft、萩森政頼
2.Development of a near-infrared fluorescent nitroxide probe for imaging of lipid radicals in living organisms	共	2026年10月	Aasia-Pacific EPR/ESR & SEST 2026	Karin Nagahama, Toshihide Yamasaki, Kohei Sano, Fumiko Hara, Shinya Takada, Masayori Hagimori, Takahiro Mukai
3.フッ素化ペプチド脂質を用いた構造安定化抗菌リポソームの開発	共	2026年9月	第64回日本油化学会年会	原 史子、渡辺雪那、髙田慎也、吉川里依、林 紗希、永尾寿浩、吉井未貴、Marie Pierre Krafft、吉田 都、萩森政頼
4.IR820の光熱変換を利用したラジカル放出型治療薬剤の開発と評価	共	2026年9月	日本ハイパーサーミア学会第43回大会	長濱果林、山﨑俊栄、佐野紘平、原史子、髙田慎也、萩森政頼、向高弘
5.がん標的酵素Aldo-keto reductase 阻害薬のLC/MSを用いた新規評価法の開発	共	2026年6月	第74回質量分析総合討論会	大島友里、原 史子、髙田慎也、萩森政頼、佐野支帆子、渡辺 嘉、靜間基博、堀山志朱代
6.脂質ラジカルの可視化に向けた長波長蛍光ニトロキシドプローブの開発	共	2026年6月	第79回日本酸化ストレス学会学術集会	長濱果林、山﨑俊栄、佐野紘平、原史子、髙田慎也、萩森政頼、向高弘
7.アルコキシアミン誘導体にIR820を修飾した光感受性セラノスティクスプローブの開発	共	2026年5月	第20回日本分子イメージング学会 総会・学術集会	長濱果林、山﨑俊栄、佐野紘平、原史子、髙田慎也、萩森政頼、向高弘
8.TNBCの核医学診断を目的とした放射性ヨウ素標識MUC16標的プローブの合成	共	2026年3月	日本薬学会第146年会	市川大翔、河嶋秀和、谷田紗姫乃、原史子、髙田慎也、近藤悠斗、屋木祐亮、木村寛之、萩森政頼
9.親フッ素相互作用により構造安定化を志向した抗菌ナノ粒子の開発	共	2026年3月	日本薬学会第146年会	原 史子、渡辺雪那、髙田慎也、永尾寿浩、吉井未貴、吉田 都、林 紗希、萩森政頼
10.TNBCの核医学診断を目指したMUC16標的プローブの合成と基礎評価	共	2025年11月	第65回日本核医学会学術総会	河嶋秀和、白山香織、市川大翔、原史子、髙田慎也、近藤悠斗、屋木祐亮、木村寛之、萩森政頼
11.高度フッ素化ペプチド脂質を基盤とする卵巣癌標的ナノバブルの開発	共	2025年10月	第75回日本薬学会関西支部総会・大会	住田真子、原 史子、髙田慎也、Marie Pierre Krafft、萩森政頼
12.Aldo-keto reductase1B10 標的阻害薬のLC/MS を用いた阻害評価法の開発	共	2025年10月	第75回日本薬学会関西支部総会・大会	大島友里、原 史子、髙田慎也、萩森政頼、佐野支帆子、渡辺 嘉、靜間基博、堀山志朱代
13.アビラテロン誘導体に対する分子鋳型ポリマーを利用したアビラテロンおよびそ	共	2025年10月	第75回日本薬学会関西支部総会・大会	高澤帆夏、米岡星和、髙田慎也、原 史子、萩森政頼、葉山 登、宇佐美吉英、本田千恵、萩中 淳、堀山志朱代

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
の代謝物の定量				
14.生体内銅（Ⅱ）イオンイメージングを目的とした蛍光シグナル増強型蛍光プローブの開発	共	2025年10月	第75回日本薬学会関西支部総会・大会	原 史子、岡田実樹、水山奈央子、髙田 慎也、山﨑俊栄、向 高弘、萩森 政頼
15.TNBC-targeted nanobubble fluorescence imaging probes with improved stability through fluorous interactions	共	2025年9月	World Molecular Imaging Congress2025	Masayori Hagimori, Fumiko Hara, Shinya Takada, Marie Pierre Krafft.
16.抗菌活性を有するペプチド脂質の開発とナノ粒子の作製	共	2025年9月	第63回日本油化学会年会	原史子、渡辺雪那、髙田慎也、Mari-Pieer Krafft、萩森政頼
17.アビラテロン誘導体に対する分子鋳型ポリマーの応用 -アビラテロンおよびその代謝物の定量-	共	2025年8月	第37回バイオメディカル分析科学シンポジウム	堀山志朱代、髙田慎也、原 史子、萩森政頼、葉山登、本田千恵、萩中淳
18.BNCT用薬剤の局在評価を目的としたボロン酸検出用レシオ型蛍光プローブの開発	共	2025年7月	第２１回日本中性子捕捉療法学会学術大会	髙田慎也、金井泰和、天滿敬、堀山志朱代、原史子、萩森政頼
19.BNCT用薬剤の細胞内イメージングを目的としたレシオ型ボロン酸蛍光プローブの開発	共	2025年5月	第19回日本分子イメージング学会総会・学術集会	髙田慎也、原史子、堀山志朱代、天滿敬、萩森政頼
20.アルド-ケト還元酵素阻害薬の新規阻害活性評価法の検討	共	2025年3月	日本薬学会第145年会	大島友里、福田千紘、原史子、髙田慎也、萩森政頼、佐野支帆子、佐藤博文、靜間基博、堀山志朱代
21.ピラノキノリチンを基盤とする凝集誘起発光型分子の開発とがん治療用光増感剤への検討	共	2025年3月	日本薬学会第145年会	萩森政頼、吉田達貞、原 史子、髙田慎也、小川由起子、田中啓太郎
22.生物中ホウ素の検出を目的とした蛍光プローブの開発	共	2025年3月	日本薬学会第145年会	髙田慎也、藤野毅、見島伊織、Dehini Ganegoda、原 史子、堀山志朱代、天滿 敬、萩森政頼
23.6-フェニル-2-ピロン骨格を基盤としたアルミニウム蛍光プローブの開発とその応用	共	2025年3月	日本薬学会第145年会	原史子、水山奈央子、藤野毅、Ashok Kumar Shrestha、Thenuwara Arachchige Omila Kasun Meetiyagoda、髙田慎也、向高弘、萩森政頼
24.フッ素化ペプチド脂質からなる卵巣癌標的ナノキャリア型19F-MRI 薬剤の開発	共	2024年10月	第74回日本薬学会関西支部総会・大会	吉川里依、原史子、髙田慎也、Mari-Pieer Krafft、萩森政頼
25.BNCT 用薬剤の有効性評価を目的としたレシオ変化型ボロン酸蛍光プローブの開発	共	2024年10月	第74回日本薬学会関西支部総会・大会	松本芽依、髙田慎也、原史子、堀山志朱代、天滿 敬、萩森政頼
26.アビラテロン新規代謝物の構造および代謝経路の解析	共	2024年10月	第74回日本薬学会関西支部総会・大会	城戸﨑彩乃、高澤帆夏、原 史子、髙田慎也、萩森政頼、葉山 登、萩中 淳、堀山志朱代

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
27.Aldo-keto reductase 標的阻害剤のLC/MS を用いた阻害評価方法の検討	共	2024年10月	第74回日本薬学会関西支部総会・大会	福田千紘、大島友里、堀山志朱代、原史子、髙田慎也、萩森政頼、佐野支帆子、佐藤博文、靜間基博
28.フッ素化ペプチド脂質を基盤とするTNBC標的ナノキャリアの開発	共	2024年9月	第62回日本油化学会年会	原史子、吉川里依、髙田慎也、Marie Pierre Krafft、萩森政頼
29.縮環型ピラノキノリチン誘導体の凝集誘起発光メカニズムの解明	共	2024年6月	第61回化学関連支部合同九州大会	吉田達貞、萩森政頼、原史子、髙田慎也、高田誠、小川由起子、田中啓太郎
30.LC/MS を用いたアルド-ケトレダクターゼ阻害薬の阻害効果評価方法の検討	共	2024年5月	第72回質量分析総合討論会	福田千紘、堀山志朱代、原史子、髙田慎也、萩森政頼、佐野支帆子、佐藤博文、靜間基博
31.光線力学療法への応用を目指した凝集誘起発光型有機分子の開発	共	2024年3月	日本薬学会第144年会	萩森政頼、吉田達貞、原史子、髙田慎也、小川由起子、田中啓太郎
32.ボロン酸医薬品の有効性評価を目的としたレシオ変化型ボロン酸検出用蛍光プローブの開発	共	2024年3月	日本薬学会第144年会	髙田慎也、原史子、堀山 志朱代、萩森政頼
33.TNBCの早期診断を目的としたMUC16指向性ペプチドプローブの合成	共	2024年3月	日本薬学会第144年会	原史子、河嶋秀和、堀山志朱代、屋木祐亮、髙田慎也、木村寛之、萩森政頼
34.アミノナフトチアゾールジオン誘導体の抗菌活性～2-(piperazin-1-yl)naphtho[2,3-d]thiazole-4,9-sion(PNT)の菌体内への取り込み評価と抗菌メカニズムの検討～	共	2024年2月	第8回研究成果の社会還元促進に関する発表会	原口珠実、林紗希、畠中芳郎、永尾寿浩、田中重光、吉井未貴、高田慎也、原史子、萩森政頼、吉田都
35.標的指向化微細気泡の安定化を目的としたフッ素化ペプチド脂質の合成と物性評価	共	2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会	吉川里依、原史子、髙田慎也、Krafft Mari-Pieer、萩森政頼
36.2-(piperazin-1-yl)naphtho[2,3-d]thiazole-4,9-dioneの抗菌メカニズムに関する研究	共	2023年10月	第73回日本薬学会関西支部総会・大会	原口珠実、宇野莉央、畠中芳郎、永尾寿浩、田中重光、吉井未貴、高田慎也、原史子、萩森政頼、吉田都
37.高度フッ素化ペプチド脂質を用いたマイクロバブルの作製と物性評価	共	2023年9月	日本油化学会第61回年会	萩森政頼、原史子、髙田慎也、Estefania E.、Mendoza-Ortega、Marie Pierre Krafft
38.Development of a fluorescence zinc probe with high affinity and its imaging in mouse brain tissue	共	2023年9月	World Molecular Imaging Congress 2023	Fumiko Hara, Naoko Mizuyama, Takeshi Fujino, Shinya Takada, Hideo Saji, Takahiro Mukai, Masayori Hagimori
39.A ratiometric	共	2023年9月	World Molecular	Fumiko Hara, Naoko Mizuyama, Takeshi Fujino, Shinya Takada,

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
fluorescent probe based on pyrone-fused tricyclic scaffolds for Al3+ in living cells			Imaging Congress 2023	Takahiro Mukai, Masayori Hagimori
40.レシオ型の蛍光特性を有するアルミニウム蛍光プローブの開発	共	2023年7月	第35回バイオメディカル分析科学シンポジウム	原史子、水山奈央子、藤野毅、向高弘、萩森政頼
41.蛍光性6-アリール-2-ピロンを基盤とする細胞内Al3+検出用蛍光プローブの開発研究	共	2023年6月	日本分析化学会近畿支部 創設70周年記念式典	原史子、水山奈央子、藤野毅、向高弘、萩森政頼
42.Aminonaphto[2,3-d]thiazole-4,9-dione誘導体の抗菌活性	共	2023年5月	日本薬剤学会第36年会	吉田都、宇野莉央、畠中芳郎、永尾寿浩、吉井未貴、原 史子、萩森政頼
43.細胞内アルミニウムイオンのイメージングを目的とした蛍光プローブの開発	共	2023年5月	第83回分析化学討論会	原史子、水山奈央子、藤野毅、向高弘、萩森政頼
44.高発光性示す凝集誘起型有機蛍光分子の開発	共	2023年3月	日本薬学会第143年会	萩森政頼、原史子、吉田達貞、小川由起子、田中啓太郎
45.生体内アルミニウムの検出を目的とした蛍光プローブの開発	共	2023年3月	日本薬学会第143年会	原史子、水山奈央子、藤野毅、向高弘、萩森政頼
46.AIEE性をもつピリジン-マレイミド誘導体の蛍光特性と構造解析	共	2022年7月	第59回化学関連支部合同九州大会	吉田達貞、原史子、萩森政頼、小川由起子、田中啓太郎
47.アルド-ケトレダクターゼの基質特異性を利用した酵素活性阻害薬のLC-MSを用いた評価方法の開発	共	2022年6月	第70回質量分析総合討論会	佐野支帆子、堀山志朱代、林麻利亜、原史子、本田千恵、萩森政頼、野坂和人、竹内孝江
48.新規有機蛍光色素のAIEE特性と構造的特徴の解析	共	2022年4月	日本薬学会第142年会	萩森政頼、原史子、吉田達貞、小川由起子、田中啓太郎
49.細胞内遊離亜鉛の検出を目的としたレシオ変化型蛍光プローブの開発	共	2022年2月	第23回日本亜鉛栄養治療研究会学術集会	原史子、水山奈央子、藤野毅、佐治英郎、向高弘、萩森政頼
50.生体内亜鉛の検出を目的としたレシオ変化型蛍光プローブの開発	共	2021年10月	第71回日本薬学会関西支部総会・大会	原史子、水山奈央子、藤野毅、佐治英郎、向高弘、萩森政頼
51.ピリジンーピリミジン骨格に基づく低分子型カドミウム蛍光プローブの開発	共	2021年9月	日本分析化学会第70年会	原史子、水山奈央子、藤野毅、佐治英郎、向高弘、萩森政頼
52.標的指向性マイクロバブルのためのフッ素化ペプチド脂質の合成と評価	共	2021年9月	日本油化学会第60回年会	萩森政頼、原史子、Estefania E.、Mendoza-Ortega、Marie Pierre Krafft
53.生体内カドミウムの検出を目的とした蛍光プローブの開発	共	2021年3月	日本薬学会第141年会	原史子、水山奈央子、藤野毅、佐治英郎、向高弘、萩森政頼
54.葉酸受容体を標的と	共	2019年3月	日本薬学会第139年	原史子、佐野紘平、三浦拓、野沢浩加、宗兼将之、山﨑俊栄、萩森

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
した核医学／蛍光デュアルイメージングプローブの開発			会	政頼、向高弘
３．総説				
1.マイクロドロップレット技術を利用したエンドトキシン試験の高効率化	単	2026年6月	ぶんせき，6，190（2026）.	
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				
1.重水素置換による構造安定化ペプチドを用いた卵巣癌の早期診断・治療薬剤の開発	単	2026年4月	科学研究費助成事業（若手研究）	代表
2.アルド・ケト還元酵素標的治療薬の質量分析を用いた新規評価方法の開発と分子認識構造誘導型創薬への応用	共	2025年4月	武庫川女子大学女性研究リーダー育成推進センター 文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）「女子総合大学における挑戦的次世代リーダー育成プログラム」 架橋横断的重点共同研究	研究担当者
3.微量金属元素の検出を可能とする蛍光プローブの開発	単	2024年7月	武庫川女子大学女性研究リーダー育成推進センター 文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）「女子総合大学における挑戦的次世代リーダー育成プログラム」 大学院フェローシップ制度　研究奨励費	
4.トリプルネガティブ乳がんの早期発見を可能とする新規分子標的型ペプチド薬剤の開発	単	2022年8月	科学研究費助成事業（研究活動スタート支援）	代表
5.難治性乳がんの核医学イメージングを目的としたMUC16指向性	単	2022年4月	日本科学協会　笹川科学研究助成	代表

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
ペプチドプローブの 開発				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2024年9月5日	日本油化学会第62回年会　ポスター賞
2.2024年3月30日	日本薬学会第144年会学生優秀発表賞（ポスター発表の部）
3.2023年6月24日	日本分析化学会近畿支部創設70周年記念式典　学生ポスター賞